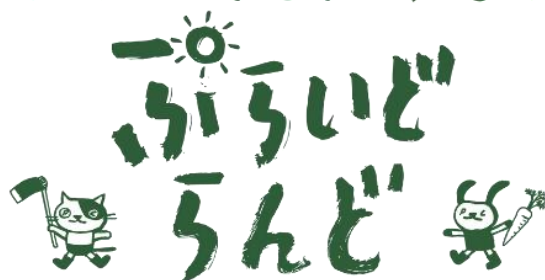


ぷらいどらんど共創の杜（農福連携施設）
仲間全員の活動の場（就労継続支援B型、生活介護、
通所介護）となる一次製品の加工房、農家カフェ、直売所

**ぷらいどふあーまーの家
（グループホーム）**
独立就農を目指す障害のある人
が住まう人材育成の拠点

2028年春 竣工予定
基本設計の内容について共有させていただきます
たくさんのアイデアありがとうございました

みんなでつくる、みんなの



我々が目指す福祉は、『人間開発』

福祉 × 農 × 地域 = 就農人材育成・輩出

農における高品質なものづくりの技術と、地域における人的資源と自然資源を掛けあわせて生まれるシナジーをみらいのノウハウである就農人材育成・輩出につなげます。仲間が、早野の各場所で、地域の熟練者・技能者と関わり、農や畜産による生産、生産物の加工、商品化、販売、運営という様々なコトに携わり、その過程で培われ集積した実践知が『ぷらいどらんど』に収斂します。旧来、人が育つ要素は“生活”の中にありました。仲間は“生活”を通してその実践知を習得し、その後は独立して活躍できる事を目途とします

福祉 目指す福祉の在り方としての『人材育成・輩出』

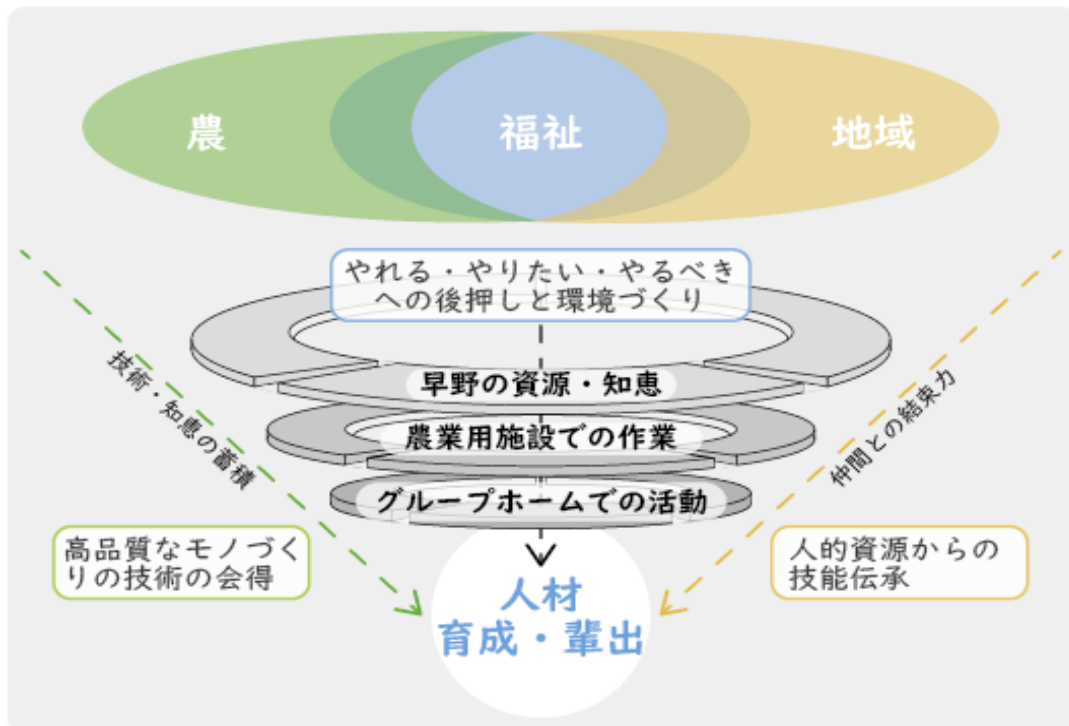
効率最優先の産業型社会から、心の豊かさを大事にするウェルビーイング型社会への移行は、心身に障害がある事が障害にならない社会への転換であり、障害のある人にとり社会、経済活動に貢献できる機会をもたらすと考えます。これからの福祉とは、画一的な施策ではなく、各々の「やれる（自信）、やりたい（意欲）、やるべき（使命感）」に寄り添い、多様な人との関わりの中で技能が身につく、可能性が広がり、自立して生きていけるようになる為の「人材育成・輩出」の実践と考えます

農 都市農業における新たな農ビジネスモデルの確立

大規模営農に適さない都市農業では、新たな農ビジネスモデルと、担い手の育成・輩出が喫緊の課題です。これまで、ぷらいどらんど（株）では自然農法を軸にした野菜栽培や、自然採卵養鶏を実践し生産技術と顧客を蓄積してきました。消費者との距離が近いという強みを活かした六次産業として、効率や生産性を追う農業ではなく、他を圧倒する高品質なモノづくりと、地域コミュニティとのコト創りを追求します。それらの手法をオープンソース化、人材や情報が集積する事で生産技術を深化させ、真の価値を提供していきます

地域 地域資源を生かす仕組み・仕掛け・働きかけ

地域には、豊富な実践知をもつ農業者、里山保全の技術を持つ人、子育てや介護などケアの経験を積んだ人等、多様な技能、想いを持つ人的資源が点在しています。また農地、山林など自然資源も残存しており、彼らの手で、山林整備で出る薪は浴室の温水等に、竹炭や落葉は土中整備や堆肥に、生産物は加工品へなど様々なものが活用されます。これら人的資源と自然資源が掛けあわせられシナジーを生み出す「仕組み」、実践を促す空間などの「仕掛け」、多様な人と共働するワークショップなどの「働きかけ」の要素を整備します



みんなではたらく場 『ぶらいどらんど共創の杜（農福連携施設）』

●農福連携施設を通じた人材育成・輩出の場

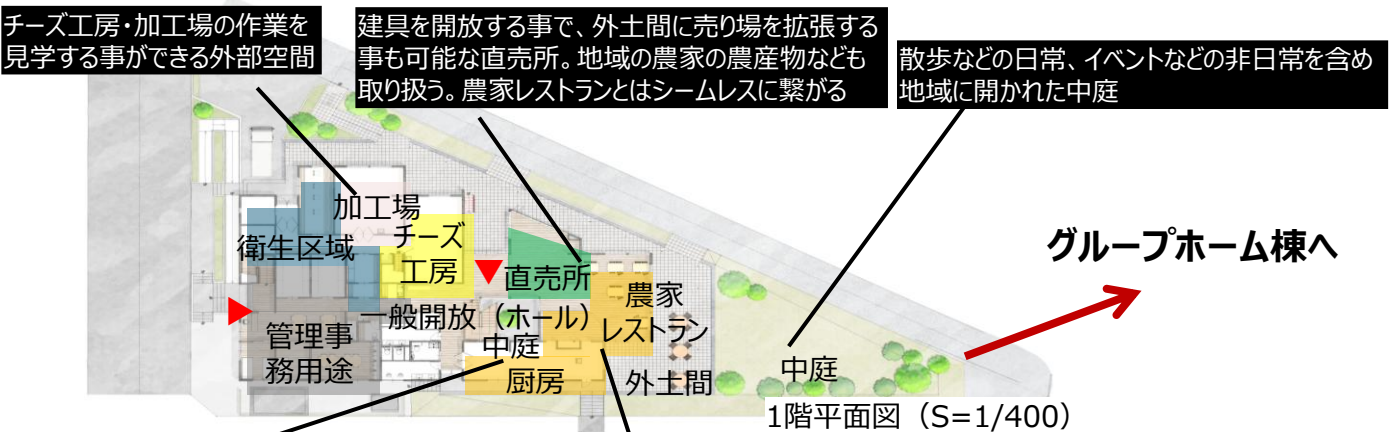
- 加工場は**チーズ工房**（ヤギ乳を使用したチーズの製造）、**皮革工房**（ヤギ皮を使用）、**焼き菓子工房**（自然採卵の卵を使用したプリンや焼き菓子等の製造）、**直売所**（自ら育て、収穫した早野の野菜等や、地元農家さんの生産物等を販売）、**農家レストラン**（自ら育て、収穫した早野の野菜や家畜の肉を使用）と多岐にわたる
- それぞれの作業場は、**地域の指導者等からの技術伝承の場**となると共に**従業員と社会（来客等）とのつながりの場**ともなり、**グループホーム**と併せて**人材育成・輩出の場**となります
- 場の多様性を高める為、積極的に**技術情報を開示（オープンソース化）**する事から、地域の**技術人材の関心を引き寄せ、日常的に技術進化に向けた共創の場**を目指します

●地域の憩いの場として開放される施設

- 施設内には、**農家レストラン**や**直売所**など、**地域の人**がふらっと訪れる事ができる**用途**があります
- 二階のテラスや**農家レストラン**と繋がる庭など日々の散歩などに立ち寄れる**外部空間**もあり、現在の早野地域の課題として挙げられる「**地域で集まれる場所がない、地域の拠点となる場所がない**」という問題の解決にも取り組みます
- 地域の子供たちに農業の魅力を伝える事を目的に、**子供たち向けに寺子屋、こども食堂等も地域住民との共働で運営**します

●地域資源の活用・循環

- 本事業では、早野の**地域資源の活用・循環**に寄与する計画を行っています。農福連携施設では、**地域の里山整備で出た薪**を用いて**ピザ窯やパン窯**に使用します。作業場が出た生ごみは一部コンポストによって堆肥化し、畑に使用していきます
- その他、**グループホーム棟**と同様に**主要構造部**には神奈川県産の木材を積極的に活用し、**建築・外構工事の一部**に利用者や地域住民が参画できる機会を設けます



吹き抜けで外に繋がる中庭では、ホタルの飼育なども行う

ピザ窯など、みんなで火を囲む事ができる農家レストラン

早野の農村風景を眺める事ができるテラス

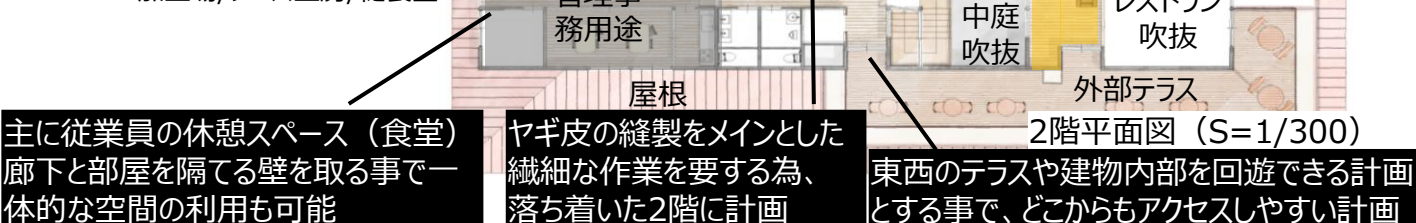
農家レストラン1階とつながる吹き抜けに面した客室

南からたっぷり採光を確保できる吹抜

●農福連携施設 配置・平面計画

■ 建築概要

敷地面積：1254.98㎡
 建築面積：614.18㎡ (185.78坪)
 延床面積：778.11㎡ (235.3坪)
 建築規模：木造2階建
 用途：直売所/農家レストラン/
 加工場/チーズ工房/縫製室



みんなでくらす場 『ぷらいどふあーまーの家（グループホーム）』

●内外が繋がるオープンな空間

- 1階はキッチン、浴室、ランドリーなど利用者と地域の人が共に使える地域にひらく場とし、互いが家庭的な雰囲気の中で関係性を紡げるような設えとしました
- 壁のない職員コーナーからは視認性もよく、スタッフは適度な距離感で利用者を見守る事ができます
- 隣接する畑での収穫物を土間で捌き、キッチンで料理し共に食卓を囲みます。土間や食堂は時に**農の技術伝承や学びの場**ともなるので外部に開き、見通しがよく行き来がしやすいよう開口部を大きく取りました
- 浴室とランドリーに接する居間は**畳の小上がり**を設え、お風呂上りや洗濯後に気軽に交流できる場となると共に、土間や庭と一体に使える空間としました

●育てあう場としての「家」

- 1階は地域にひらき交流を促す空間とし、2階は利用者とスタッフが心地よく落ち着いて過ごせる事に配慮
- 架構構造の工夫により、共用部は**風が通り自然光が差し込む明るく開放的な空間**となります。への字型の平面プランと個室の屋根（天井）の切妻型は家の連なりや路地を連想させます
- できるだけその地域にある資材や環境負荷の少ない素材を用い、太陽や風など自然から得られるエネルギーを取入れた住まいは心身を穏やかに保ちます
- 居間、キッチンはスタッフもまじえた学びと語らいの場になります。“生活”を通じて、生きる為の技術や人との**関係性を培い、互いを育てあう場としての「家」**を模索しました

●地産の素材を使い、地域のみんまも参画する

- 主要構造部には神奈川県産の木材を積極的に活用
- **利用者や地域住民が、ワークショップ形式で建築・外構工事の一部に参画**できる機会を設けます。自らの手をつかい共に作業する事は、そこでの暮らしへの愛着と共に、共働きのよこびや仲間意識を育みます
- ※ワークショップのプログラム案
 - ・地域の土を使った土塗壁、日干しレンガづくり、温室用のペチカストーブ作り
 - ・地域資源を活用する土中環境整備（竹チップ、竹炭、藁、落ち葉、おがくずなど）
 - ・災害時に生きるローテク技術の活用（かまど作り、小型太陽光発電設備作りなど）

●グループホーム 配置・平面計画

■ 建築概要

敷地面積：478.68㎡
 建築面積：194.00㎡（58.68坪）
 延床面積：383.54㎡（116.02坪）
 建築規模：木造2階建
 用途：グループホーム（10室）

畑とつながる食卓

畑からの収穫物をつかい、地域の母親グループに教わりながら共に料理し、みんなで食卓を囲む

利用者の居間や学習の場としての使い方から地域交流の拠点として庭まで広がる居間

農の技術伝承の畑

地域の農家さんや里山保全ボランティアさんから農の技術を教わり、実践していく畑

農福連携施設棟へ

農作業後のひとつ風呂

地域の農家さんや里山保全ボランティアさんと共に汗を流し、絆を深める

学びと語らいの居間

利用者専用の居間では、日々の学びの共有や新しい「やりたい」事についてスタッフも交えみんなで語らう

農技能伝承の畑

1階平面図（S=1/300）

地域資源のエネルギー化

地域の里山の循環力再生の為に地域森林資源をエネルギー活用災害時にも地域に安心をもたらす

活動の幅を広げる土間

農技術のレクチャーや野菜の捌き、アースオーブンを使った調理など様々な使い方ができる、食堂と畑を繋ぐ中間領域

2階平面図（S=1/300）

